



日本キリスト教団
三軒茶屋教会

<https://sanchurch.jp/wp/>

三軒茶屋 教会通り

第68号 2024年1月発行

〒154-0024
東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX: 03-3418-4933
発行：三軒茶屋教会 広報部

「ぜひそれをやろう」と考えて期待をかけるわたしたちがいる。教会での行事や奉仕についてよいアイデアが浮かぶ。しかし、それらを実行して、心から喜ぶのは誰なのか。

得意分野や経験を生かせるのであれば意欲も高まり、うまく事が進むと想像もできる。成功すれば、達成感や満足感に浸れる。それが何度も実現したら、教会の実績としても誇れよう。

今まで多くの教会がそのようなアイデアを実行してきた。コンサートや演奏会、文書伝道やチャシ配布、講演会、バザーなど、どれも伝道の種まきになると信じた。多くの人々が集ったならば、「次回も同様に」となり、恒例のお楽しみとなったりもした。

では、それらは本当の意味で実を結んできたのだろうか。教会の前進と発展を支えたであろうか。もしそうであったなら、かなり前から予測されていた教会員の減少は避けられたかもしれない。どれも決して無意味だったのでは

はない。実に「教会らしい」歩みであり、確かに教会員どうしの楽しい交わりは深まり、よき思い出もなっているはずだ。

しかし、何かが欠けていた。しかも根本のところでは何か不十分だったのだ。その何かとは、これを実行することが、天の喜びとなるのかをよく吟味してこなかった点にある。

人間にとって楽しいことや面白

天の喜びと地の楽しみ

—キリスト者たちの営み—

牧師 伊藤英志



教会の雰囲気や歴史を語ることや牧師の手柄を評することなどは話しやすい。行事やイベントならば誘いやすい。しかし、その言葉でイエス・キリストが語られているか。そこに主キリストを響かせようとしているか。

天が喜びとする地上の人間による業とは、むしろ自分自身を献げるような労苦や困難が伴う。誰もやりたがらないことを「わたしがやります」と手を

差し伸べて、主キリストについてその口で語ることもこそが、天の喜びと

なってゆく。歴代のキリスト者たちは、自分の

好みで奉仕を選ばず、労苦や困難が予想されても自らを差し置いて果敢に取り組んできた。それが諸教会の長い歴史を紡いできた。

その教会の未来の日々は、そのような気概と姿勢を保ったキリスト者たちの営みによって、より堅固に形づくられていく。その歩みに関わろうとするキリスト者たちそのものが、まさに天の喜びになるのだ。